

The Pathway to Suicide: The Central Role of Ego Splitting in the Suicidal State

「自殺に至る過程—自殺を引き起こす状態における自我の分裂の中心的役割」

講演者: Rachel Gibbons (Royal College of Psychiatrists)

司会: 岡村 斉恵 (初石病院／個人開業)

指定討論: 高野 晶 (北参道こころの診療所)

通訳: 増田 将人

稲員 修平

【概要】

喪失体験の後に生じる激しい情動状態は、深刻な自我の分裂を引き起こす。この分裂は、破壊的な「加害者の側面」と、傷つきやすい「被害者の側面」とに特徴づけられ、自殺に至る過程では、しばしば前者が後者を圧倒し、自殺にまつわる空想を通して支配的になる。

この自殺の精神力動的な視点は、自殺予防だけでなく、複雑な悲嘆に苦しむことの多い遺された人々の支援にも資するものである。自殺の問題を精神分析の視点で正面から捉え、心理的メカニズムをより深く理解し、人間存在の本質や、「生きようとする意志」と「死へ向かう衝動」との実存的葛藤について理解することで、危機にある人々や遺された人々の双方に対して、よりよい支援体制を築くことが可能になる。

【演者紹介】

Rachel Gibbons

英国精神分析協会の精神分析家、成人のコンサルタント精神科医、グループ分析家。

20年以上にわたり NHS で様々な精神医学や心理療法に携わる。自殺、殺人、喪 (mourning) に関する多くの論文を発表しており、医療と法律分野においても豊富な経験がある。